

出張報告届

令和5年10月2日

吹田市議会議長様

会派名 立憲民主党

代表者氏名 西岡 友和

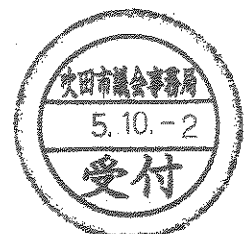
出張者氏名 西岡 友和

.....
.....
.....
.....
.....

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	日経SDG's Festival ブルーオーシャンフォーラム・シンポジウム (東京都千代田区大手町1-3-7)
期間	2023年9月11日～9月12日まで2日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	



2023 年 9 月 13 日

西岡 友和

国連が定めた「持続可能な開発目標（SDGs=Sustainable Development Goals）」の達成を目指すためのシンポジウムであり、初日はブルーオーシャン（産官学で取り組む海の保全と繁栄）について、小泉進次郎元環境大臣やインドネシア共和国、及びフィリピン共和国の環境大臣や、両国の駐日大使も参加して、東アジアにおける海の繁栄、とりわけマイクロプラスチックの問題について議論された。

マイクロプラスチック問題は環境、生態系、人間の健康に悪影響を及ぼす深刻な問題であり、アジア・太平洋地域において日本が果たす役割は大きい。国際的な協力と規制、産業界と消費者の協力、研究とイノベーションの推進が必要であり、温暖化問題とは異なるもう一つの大きな環境破壊の問題として、環境保護と持続可能な未来のために不可欠な課題である。

まず、マイクロプラスチックは、直径が 5mm 以下のプラスチック微粒子であり、いわゆる研磨剤などに含まれる 1 次的微粒子と、主にプラスチック製品やビニールの梱包が紫外線などにより分解され、環境中での摩擦などによって発生する 2 次的粒子に分類される。現在では日本を含む多くの先進国では 1 次的な製品は代替化が進んでいる。問題は、完全なる焼却処分に漏れるプラスチックであり、ワンウェイの使い捨てビニールなどはどうしても一部は処分から漏れる。また、衣服や洗濯機からの繊維の摩擦によって、マイクロファイバーが排出される。これも回避することが困難な、マイクロプラスチックの一部である。

海洋生分解性とは、土に比べて微生物の少ない水中において、自然に分解される性質であり、微粒子になって水中に漂うことのないプラスチックを作る事ができる。課題はコストと性能であり、代替可能なものもあれば、耐久性などから現在の商品にとってかわることが出来ない物もある。

環境への影響として、マイクロプラスチックは土壌と水質を汚染し、生態系に悪影響を及ぼす。海洋生物がこれを誤って摂取し、消化器系へのダメージや毒性のリスクが考えられる。これにより、生態系のバランスにも影響を及ぼす可能性がある。さらに食物連鎖を通じて人間にも影響を及ぼす可能性がある。すでに調査によると微量のプラスチック粒子が人間にも摂取されており、その健康被害については詳細なデータは無いものの、これが健康への潜在的なリスクを引き起こす可能性は否定できない。

経済活動における企業の活動において、SDGs の達成に向けた重要な役割を果たすこと